令和６年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和６年４月１６日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容

教科に関する調査

→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立清水台小学校

■国語科

品川区立清水台小学校
令和６年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
総合的には、目標値、全国正答率を上回ることができ、継続して取り組んできた国語科の研究の成果が表れた。「漢字を書く」ことや、話や情報を正しく理解し「文章を書く」ことに課題が見られる学年が多い。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	○かん字をかく 第１学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○見たことをもとにはっぴょうする 情報と情報との関係について理解し、相手に伝わるように、経験したことに基づいて話している。 ○文しょうをかく 文を１文以上書いている。	・学習した漢字が定着しきれていない。日頃文章を書くときに、習った漢字を使おうとしていない。 ・ある情報から必要な情報を取り出して、記述することが苦手である。 ・テーマに沿って文章を書くことに慣れていない。また、文章を書くこと自体に抵抗感を感じている児童がいる。
３年	○かん字を書く 第２学年に配当されている漢字を正しく書いている。 ○作り方をせつ明する文しょうを書く 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 情報と情報との関係について理解し、語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書いている。 ○文しょうを書く 指定された長さで経験したことがらをから書くことを見付け文章を書いている。	・既習漢字が定着していない。日常から意識的に漢字を使おうとしていない。 ・事柄の順序を考えながら、話したり書いたりすることが苦手である。 ・順序を表す言葉を活用しながら文章を書くことや、接続詞などの語彙が少ない児童が多い。 ・問題の意味を理解できずに解答しており、自分の考えを文章に書くことに抵抗をもっている児童が多い。
４年	○漢字を読む 第３学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。 ○言葉の学習 主語と述語の関係について理解している。	・既習漢字が定着していない。日常的に既習漢字を使う意識が低い。 ・主語や述語の意味を正しく理解できていない。語句と語句のつながりを意識していない。
５年	○漢字を書く 第４学年に配当されている漢字を正しく書いている。	・既習漢字が定着していない。文章を書くときに、習った漢字を使おうとしていない。
６年	○言葉の学習 和語・漢語・外来語について理解している。 ○文章を書く 指定された長さで文章を書いている。	・和語・漢語・外来語の意味の理解が浅く、見分けることができない。 ・自分の意見について理由を明確にし、指定された文字数でまとめる力が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・１年生で学習した漢字については、確実に習得できるようノートに練習したり、プリントを活用したりして、反復学習に取り組む。また、学習した漢字を日常的に使うことを常に意識させる。 ・様々なテーマで文章を書く経験を重ね、ワークシート等も活用し、より分かりやすく文章を書けるように指導する。文章を書くことに抵抗感がなくなるよう、様々なテーマで 100 字程度の文章を積み重ねていく。 ・初見の文章から、聞かれていることに的確に答える練習をする。
３年	・既習漢字の定着を図るために小テストを行う。 ・日々の授業において自分の考えや事柄の説明をする際、順序を表す言葉やナンバリングなど意図的に使って書いたり話したりする取り組みを行う。 ・文章を読んで、分かっていることや尋ねられていることを整理しながら読む習慣をつけていく。
４年	・既習漢字の定着を図るために漢字テストを定期的に行う。 ・文章を書く際に、既習漢字を使うことを意識させる。 ・朝学習等で RST（リーディングスキルトレーニング）に取り組み、言葉の力を高める。
５年	・週に１回の漢字小テスト（１０問）を行うことで、既習の漢字の定着を図る。 ・授業の振り返りなどは習った漢字を使って文章を書かせるようにする。
６年	・言葉の使い方や仕組みなどについて、「読む」の単元の中でも扱うようにし、定着を図る。 ・自分の考えを友達と交流することで、多くの意見を取り入れたり、受け止めたりしながら自分の考えを深められる活動を取り入れていく。 ・筆者が伝えたいことを確認し、筆者の意見と自分の経験などの相違点を見付けながら根拠をもとに自分の考えを書く機会を増やしていく。また、文章の組み立て方を身に付けられるように指導していく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■算数科

品川区立清水台小学校
令和６年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
３年生以上から習熟度別指導を行っている成果が表れ、概ね目標値、全国正答率を上回ることができたが、観点別にみると目標値、全国正答率を下回っている学年もあった。問題の内容や情報を正しく読み取ることに課題が見られる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
２年	○３つのかずのけいさん ３口の加減混合の場面の立式と正しい答えを求めることができる。 ○ながさ・かさ 形の異なる容器の水の量をコップ何杯かで比較できる。 ○絵をつかったグラフ イラストを見て、動物別に個数を数えて、絵グラフに色を塗ることができる。	・お話に合わせて、３口の加減混合の立式はできているが、計算間違いや式の見違いにより、正しく答えを求められていない。 ・文章を読み取る力不足により、場面に合わせて、適切な言葉や数をあてはめる力が弱い。 ・ものの個数を正確に数えることができない。
３年	○長さ・かさ 1L＝10dL であることを理解し、リットルますに入った水のかさを、L と dL で表すことができる。 ○たし算・ひき算 ２けた－２けた＝２けた（繰り下がり１回）の計算ができる。 ○かけ算 九九表から、乗法の交換法則が成り立つことを理解している。	・長さやかさの単位が正確に理解できていないため単位換算ができない。 ・繰り下がりがある計算では、繰り下がりを忘れたり、計算ミスをしたりする。 ・かけ算のきまりについての知識や理解が身に付いておらず問題が解けていない。
４年	○大きい数・小数・分数 小数の相対的な大きさについて理解している。 数直線上に示された分数を読み取ることができる。 ○わり算 文章問題を解くために除法の立式をしている。	・小数も分数も、もとになる数の大きさの理解が不十分である。 ・問題文からもとにする量を正しく読み取れていない。
５年	○折れ線グラフと表 １目盛りの大きさが違う２つのグラフをもとに、間違いを指摘している。 ○いろいろな形 平行四辺形の作図ができる。	・１目盛りの大きさに気を付けて読み取れていない。 ・必要な要素を入れて理由を分かりやすく表現することが苦手である。 ・平行四辺形の特徴の理解が不十分である。 ・作図の仕方の理解が不十分である。
６年	○分数の計算 帯分数－真分数＝真分数（約分なし）で、分母同士をかける通分をする計算ができる。 ○円グラフや帯グラフ・平均 与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しいかどうかを判断し、そのわけを説明している。	・帯分数を仮分数に直し、その後、通分するという過程ややり方の理解が不十分であり、正しい計算も苦手である。 ・基準量と割合の計算の仕方や求めた比較量の比べ方の理解が十分でないため、正しいかどうかの判断ができない。 ・２つの表やグラフを結びつけながら、理由を分かりやすく表現することが苦手である。

■課題解決のための方策（取組指標）

２年	・絵や文章の内容を正確に読み取り、正しく立式できるように練習問題に取り組む。 ・問題文で何を聞かれているか読み取る力を付けていく。 ・ものの個数を数えるときには、数え間違いがないよう印を付けるなど、正しく数えたり、グラフに表したりする練習問題に取り組む。
３年	・繰り上がり繰り下がりがある計算では、小さい数を書くなどミスを減らす取り組みをさせる。 ・長さやかさなどの単位量問題は、実際の量を見せるなど視覚的に理解させる。 ・かけ算のきまりについて演習を通して理解を深め、かけ算九九の定着を図る。
４年	・問題のキーワードを注目させ、文章題に印を付けたり、図などに表したりすることで、もとにする量を意識させる。 ・小数や分数の何が何倍のような問題を繰り返し練習し、定着を図る。
５年	・日頃から「なぜ」、「どうして」などの理由を説明させることを徹底させる。 ・図形を作図する時間を多くとり、作図の仕方の定着を図る。
６年	・日頃の授業の中で、通分や約分に触れる機会を増やし、その都度手順を確認する。 ・文章題から立式する際に、どうしてその式になるのかを絵や図を用いて考える習慣を付けることで、割合などの場合でも適切に立式ができるように習慣付ける。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■社会科

品川区立清水台小学校
令和６年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆
各学年の正答率は、全国値を上回ることができ、ICT 機器の活用による視覚的に分かりやすい授業を行ってきたことの成果が表れた。また、児童がタブレット端末を活用する調べ学習等に取り組むことで、各学年がどの領域においても目標値を上回ることができたといえる。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	○市の様子 四方位を理解している。 土地利用（畑）の地図記号の理解をもとに、地図を読み取っている。 ○買い物調べ 買い物調べの結果を読み取っている。 買い物調べの結果をグラフにまとめている。 ○安全なくらしー火事 火災発生時、何番に電話すればよいか理解している。	・四方位や地図記号等、基礎的な知識が定着していない。 ・表やグラフなどの資料から適切な情報を見付け出したり、そこから分かることを結論付けたりすることが苦手である。 ・基礎的な知識が定着していない。
５年	○くらしをささえる水 節水のための工夫について考えている。 ○都道府県の様子 愛知県の地形の様子について、地図を読み取っている。	・用語の意味などの基礎知識が定着していない。 ・資料から適切な情報を見付け出して読むことや、複合した資料から結論を導き出すことが苦手である。
６年	○日本の食料生産 日本の食料生産の理解をもとに、資料を読み取っている。 ○情報を生かした産業 マスメディアについて理解している。	・日本の食料生産の理解が不十分なため、資料を正しく読み取れない。 ・テレビやラジオ、新聞などの総称など、知識が不足している。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・既習の基礎的な内容を関連する授業で確認する機会を設ける。 ・資料やグラフ、地図の読み取りから分かったことを自分の言葉で表現する機会を設定する。
５年	・資料の読み取りは課題を明確にしたり、読み取る視点を明示したりすることによって資料活用の力を伸ばす。 ・大切な用語や都道府県の位置と名前、地図記号など演習を通して確実な定着を図る。
６年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように繰り返し知識の定着度を確認する機会を設ける。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■理科

品川区立清水台小学校
令和６年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

教科の正答率は、目標値に対して概ね上回ることができている。観点別にみると、どの学年も目標値に対しての正答率が若干下回っている項目が例年より多い。問題の内容やグラフの情報などを正しく読み取り、それらを活用して考えることに課題がある。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
４年	○植物の育ち方 ホウセンカのからだのつくりをもとに、ネギのからだのつくりを推測できる。 ○太陽と地面のようす 太陽と影の位置関係をもとに、日かげになる場所を指摘できる。 ○じしゃくのせいしつ 実験の方法から考えの根拠となる磁石の性質を説明できる。	・学習した内容をもとに、類推して考えることが難しい。 ・基礎的な知識の定着が十分ではない。 ・問題文を正確に読み取る力、考えを表現する力に課題がある。
５年	○１年間の動物のようす 季節ごとの動物のようすを理解している。 ○物のあたたまり方 空気のあたたまり方をもとに、シーリングファンの役割を推測できる。	・基礎的な知識の定着が十分ではない。他の事象と区別が付いていないものがある。 ・実験結果から分かることを考察としてまとめる力が不十分なため、関連する事象に結びつけて考えることが難しい。
６年	○流れる水のはたらき 侵食について理解している。 ○物のとけ方 グラフをもとに、食塩水を冷やした際の実験の結果を推測し、その理由を説明できる。	・侵食の現象は理解しているものの、用語が定着していない。 ・グラフを読み取ることはできるが、なぜそのようになるのかの知識が不十分である。

■課題解決のための方策（取組指標）

４年	・予想や結論を、根拠をもって書く時間を単元ごとに確保し、文章を読み取ったり、考えを表現したりする力の向上を図る。
５年	・学習内容を身の回りの生活事象と関連付けることで、実感を伴った学習内容の理解を図る。 ・用語の意味などの基礎知識は、演習を通して確実な定着を図る。
６年	・各単元で身に付けるべき知識を確実に身に付けられるように繰り返し知識の定着度を確認する機会を設ける。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。

■英語

品川区立清水台小学校
令和６年度　学力調査分析

◆学校全体の結果分析◆

教科全体としては目標値を上回ることができたが、「基礎」に比べ、「活用」の正答率が低かった。領域的には、「聞くこと」のポイントが高く、「読むこと」「書くこと」のポイントが低い点が課題である。観点別では、バランスよく得点を得ることができていた。

■学年ごとの具体的な課題と原因

目標値を下回る内容は以下の通り。

学年	内容と出題のねらい	課題の原因として考えられること
６年	○アルファベットの読み（聞く） 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている。 ○英文の完成 もののありかをたずねる場面で、対話の流れから、探しているものの語句を判断して書いている。	・問題の形式に慣れておらず、正しい選択肢が選べていない。また授業では文字の音で読むことが増え、正しい文字（アルファベット）の名前を忘れてしまっている。 ・語彙力の不足により、分からない単語を推測することが難しい。

■課題解決のための方策（取組指標）

６年	・文字の名前を読んだり聞いたりする学習を積み重ねていく。 ・普段の学校生活の中でも、話の内容を意識したり、推測したりして聞き取るなどを身に付けられるよう指導する。 ・メトロラーニングなどに取り組んだり、教科書に出てくる歌などを一緒に歌ったりする中で語彙力を増やしたり、英語を聞いて発音していく力を身に付けられるように授業を組み立てる。 ・各単元の終わりにはその単元で学習したことをもとに発表する機会を設け、英作文を書いたり、話したりできるように指導していく。また、事前のチェックを十分に行い、自信をもって発表できる環境を整えていく。

■次年度の数値目標

・全学年、教科全体の正答率で全国値を上回る。
・各学年、課題が見られた領域で目標値を上回る。